

復旧への歩み、 着実にそして迅速に

支援の輪、途絶えることなく

台風18号が去った翌日の9月17日に高島市社会福祉協議会に「高島市災害ボランティアセンター」が設置されました。

被災後最初の週末にあたる21日から3日間には、県内外から多くのボランティアが集まり、1,500人を超える方が、家屋の泥出しやごみの後片付けなどに汗を流しました。

その後も県内外から途絶えることなくボランティアの方々が駆け付けてくださり、9月30日までに集まった人数はのべ3,144人となりました。

各団体からの大きな支援

被災された地域から出てきたガレキや粗大ごみは、車載積載量で換算して3,000トンを超える量となりました。これらのガレキは、滋賀県建設業協会高島支部のご支援により

り撤去し、ごみの分別や収集作業には高島市森林組合、高島市一般廃棄物収集運搬事業協同組合のご協力を得ました。また、道路や河川の復旧などは滋賀国道事務所、近畿地方整備局や北陸地方整備局、県関係機関で迅速に対応していただきました。

滋賀県電気工事工業組合高島支部には、災害直後に、浸水した家の漏電確認を行っていただきました。

広範囲におよぶ農地の冠水や土砂流入に対する復旧には、国の支援制度を受けることとなりますので、近畿農政局の協力を得ながら、被害状況の調査や測量を行っています。

多くの方々からさまざまなご支援ご協力をいただき、一歩ずつ復旧に向け進んでいます。

災害対策から復旧支援へ

被災された方の災害復旧を支援するため、9月25日に「高島市台風18号災害復旧支援本部」を設置しました。

9月30日に災害対策本部を解散した後も、災害復旧支援本部を中心に、被災された方々の生活支援とともに復旧事業に取り組んでいます。

支援



高島支所前に設置されたボランティアセンター。受付した後、スコップなどの道具を持ち被災地区へ。消防団員や中学生などさまざまな方が参加、家屋の中や敷地内の泥上げなどをされました。



滋賀県建設業協会高島支部の協力で、大量のガレキやごみを除去



横山に仮置きされたごみやガレキの山



砂ぼこりが舞う被災地



水路の泥出し（南鴨）



土のう積みや泥上げ（今津町椋川）



国土交通省 緊急災害対策派遣隊（テックフォース）から被害概要報告書を受け取る市長。市が管理する道路や河川、砂防施設だけで被害は97か所、被害額は2億6千万円を超えるとの報告を受けました。



ボランティアの受付・集合



高島市災害対策本部の応急対策

- 職員を被災地域へ派遣し家屋内外の泥上げ、消毒
- 被災者相談窓口の設置
- 給水車で給水支援
- 断水地区を対象とした温泉無料開放を市内4施設に要請(960人が利用) など

